



追手門学院新キャンパス計画第3弾 新教育を実現する校舎 追手門学院新キャンパス起工式

今月5日の追手門学院新キャンパス計画第2弾「新教育を実現する校舎の概要発表」に続く、第3弾です。

学校法人追手門学院(大阪府中央区、理事長：川原俊明)は、大阪府茨木市で進めている新キャンパス計画について、10月5日に起工式を行います。

当日は茨木市、茨木商工会議所、地元自治会の代表者をはじめ、本学院関係者などおよそ90人が出席し、建設工事の安全を祈願します。なお、工事は準備が整い次第、速やかに着手します。

追手門学院の新キャンパス計画は、次世代型「新たな学び」の展開拠点～いつでもどこでも「学びあい、教えあい」・「自ら学ぶ」～を実現すべく、茨木市の東芝大阪工場跡地の内の約64,400㎡を確保し、追手門学院大学と追手門学院中・高等学校の校舎を建設するもので、大学は地域創造学部と国際教養学部の移転と全学部1年次生を対象とした初年次教育の拠点化、中・高は全面移転を行います。

2019年4月の開設を目指しており、これにより大学生約3,600人、中・高生約1,200人、教職員も含めると約5,000人が集う見込みです。

【起工式】

日 時：2017年10月5日(木) 10時から(1時間程度)

会 場：追手門学院新キャンパス建設予定地(大阪府茨木市太田東芝町400-1)

参列者：茨木市、茨木商工会議所、地元自治会代表、追手門学院関係者などおよそ90人

P2～4は、9月5日発表分の校舎の完成予想図(パース図)および概要です。

大学公式ホームページ(<https://www.otemon.ac.jp/guide/campus/new.html>)ではPR動画も公開しています。

※写真データの提供を希望される場合は、別途送付しますので問い合わせください。

この資料の配付先：大阪科学・大学記者クラブ、北摂記者クラブ等

【発行元】

追手門学院 広報課 TEL: 072-641-9590 谷ノ内・足立

【追手門学院新キャンパス完成予想イメージ（パース図）】



上空から見た新キャンパスイメージ(左：中・高校舎 中央：食堂 右：大学校舎)



上空(南西)から見た新キャンパスイメージ(奥：中・高校舎 中央：食堂 手前：大学校舎)

大学



南(総持寺駅)側の横から見た大学校舎のイメージ

中・高



中・高 校舎のイメージ

【追手門学院新キャンパス概要】

住 所：大阪府茨木市太田東芝町 400 番 6

敷地面積：約 64,400 m²

建築面積：大学校舎約 6,800 m²、中・高校舎約 5,700 m²、
他に食堂棟約 1,300 m²

延床面積：大学校舎約 20,000 m²、
中・高校舎約 14,000 m²、他に食堂棟約 1,000 m²

総事業費：約 220 億



開設予定：2019 年 4 月

移転概要：追手門学院大学の地域創造学部および国際教養学部が移転＋全学部 1 年次生の初年次教育の拠点 約 3,600 人、追手門学院中・高等学校の全面移転 約 1,200 人、教職員を含めると約 5,000 人が集う一大文教地区が誕生。

(1) 大学 校舎 鉄骨・鉄骨鉄筋コンクリート造 5 階建

○教室や自習室に限らない、いつでもどこでも学べる教育環境

○図書に囲まれた学習空間の創出

○建物外でも学べる空間づくり

大学の校舎は鉄骨・鉄骨鉄筋コンクリート造地上 5 階建 1 棟で、2018 年の追手門学院創立 130 周年にちなみ 1 辺が 130 メートルの正三角形を基調とし、新教育を象徴する逆三角錐のデザインです。甲子園球場に相当する規模で、他に例を見ない校舎です。

1 階は自習や発表の場を兼ねた 1,000 人規模のホール、学生との議論や教員同士での議論ができるラーニングスペースなどです。図書館は 3 階と 3.5 階の中央部でそれを囲むように中小の教室を配置します。10 万冊を配架し、3 階は議論もできる図書室、3.5 階は静かに自習する図書室とし、構想段階ではありますが、図書館外の壁面にも図書を並べて 100 万冊の図書に囲まれた学習空間の創出を検討しています。また、通常の 3 倍にあたる 3.8 メートル幅の廊下にもデスクを置き、Wi-Fi 環境を完備します。

(2) 中・高等学校 校舎 鉄筋コンクリート造 4 階建

○未来の教育を見通した「新たな学び」＝「授業＋3 つの学び方(個別型・協働型・プロジェクト型)」を校舎全体で実現

○多様な力を伸ばす「新たな学び方」に応じてアレンジできる学習スペース

○図書スペースを 1 階から 4 階の各階に配置

中・高等学校の校舎は鉄筋コンクリート造地上 4 階建で、曲線を基調としたデザインです。「脱教室」、「脱図書室」をテーマに各階に図書スペースを設けたほか、自習にも利用できるラーニングスペースを囲んで 5 つの教室を配置し、学びに応じて教室と自習スペースの間の仕切りを取り外して一体的に使用することもできます。生徒の多様な力を伸ばす「新たな学び方」に応じて「教室の形」を変えることができます。